

公表

事業所における自己評価結果 児童発達支援

事業所名		エイド亀山		公表日		2026年 2月 16日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	1人当たり3㎡という基準に対して施設全体で232㎡のスペースがあります。	安全の確保に十分に気を付けるよう構造化を図っていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	84%	16%	定められた配置基準を満たしている。	体調不良や天候による出勤困難時にも対応できるよう職員の増員に努めています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	子どもたちが生活、活動をしやすいように、構造化に努めています。	今後も、お子様に安心して過ごしていただけるように、生活空間を整えていきます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	子どもたちが生活、活動をしやすいように、構造化に努めています。	今後も、お子様に安心して過ごしていただけるように、生活空間を整えていきます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	クールダウン等が必要な場合に対応できるように、個別に仕切られたスペースと個室がある。	子どもたちの目線、気持ちに立ちながら、生活空間をこれからも整えていきます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	日々の職員ミーティングで周知している。	勤務形態に関係なく、全ての職員と緊密な連携をとり、質の高いサービスの提供が行えるよう努めます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	ご意見に対して、改善に努めている。	毎年、貴重なご意見ありがとうございます。保護者様からのご意見に、迅速な対応が可能となるよう体制を整えます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	84%	16%	定期的にミーティングを行い、職員間で情報共有に努めている。また、必要に応じて適宜、会議を実施している。	パート職員とも緊密にコミュニケーションがとれる体制を整えます。管理者による定期的な個人面談を行っています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	現在は第三者評価を受けていない。	今後検討中。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	オンライン上の研修を含め、積極的に参加するように心がけている。また、研修内容をミーティングで職員間での共有している。	全職員が平等に研修等に参加できるような体制を整えます。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	5領域に合わせた支援プログラムを作成し、HPにて公開している。	定期的に内容を見直し、個々の利用者に対応できるように努めます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	初回アセスメントや適切なアセスメントを実施している。また、必要に応じて、児童発達支援計画を見直している。	利用者のニーズを踏まえて、今後も支援計画を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	日々のミーティングで、職員間で共有している。	非常勤職員を含めて、全職員で共通理解をできるように、緊密な連携をとれる体制を整備します。		
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	日々のミーティングで、職員間で共有している。	非常勤職員を含めて、全職員で共通理解をできるように、緊密な連携をとれる体制を整備します。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	インフォーマルアセスメントの利点を生かし、能力やスキルだけでなく、興味・関心について把握し、環境と行動に関係性を理解できるように努めています。	その場の支援者と、第三者で評価が異なる場合があるので、フォーマルアセスメントと組み合わせる支援方法を見立てて行くようにする。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	本人支援は5領域に分け「ねらい(目的)」と「支援」を示している。インクルージョンを念頭に、すべての子どもが共に成長できるように移行支援を行い、子どもの育ちや暮らしを安定させる丁寧な家族支援を行うように心がけています。	社内研修等で職員の質の向上に努めます。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	子どもたち、ご家族様からの要望を踏まえたうえで、企画会議でプログラムを立案している。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	84%	16%	また、すべての職員が意見を出し合える環境を作り、様々なプログラムの実行を可能としています。季節感、集団活動、個別活	今後も、子どもたちやご家族様からの要望を積極的に取り入れ、プログラムがマンネリ化しないようにしていきます。		

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	動、日常体験など、ハフンスよく支援計画に反映し、実行できるように心がけています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	事前ミーティング、振り返り、当日の役割分担、支援の確認を行っている。非常勤職員を含めすべての職員が、情報を共有できるように、議事録・口頭伝達等を行っています。勤務時間やイベント等の関係でどうしてもできない時もある。	子ども達の自立支援のお手伝いを、全職員が責任をもって関わられるように、職員個人の振り返りもこれまで以上に充実させていきます。働き方改革も行いながら生産性を高め支援の質を向上させられるよう努めます。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	67%	33%		
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	67%	33%	日頃から支援内容の共有、振り返りができるようにしている。また、活動実施記録を作成し、日々の検証・改善に繋げている。労働時間等の関係で徹底できていない日がある。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	各関係者と慎重な会議のうえ、見直しを行っています。	モニタリング月の実地のみならず、必要に応じて回数を増やしている。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	子どもの支援に特に深くかかわっている者を、参加させています。	全ての職員が参画できるように、職員の質の向上に努めます。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	84%	16%	計画相談も含めて、医療機関への同行、情報共有等を行い、連携して支援に取り組んでいます。	必要な連携が全て迅速にできていくわけではない。各関係機関の時間等の都合によりタイムラグが起きてしまう。積極的に連携が取れるよう働きかけていきます。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	施設見学や活動参加による支援内容等の情報共有、相互理解を図っている。	インクルージョンを推進するために、一般施策への移行、並行通園、保育所等訪問支援を保護者様と慎重に検討した上で、連携をできるように取り組んでいきます。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	現在、該当児がいない。	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型である利点を生かして、環境の変化によるストレスが軽減されるように、最大限の努力をします。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				児童発達支援センター以外のため省略
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受ける機会を設けているか。	67%	33%	スーパーバイザーに助言を受ける機会が少ない。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	67%	33%	施設内で交流はあるが、外部との交流は少ない。	今後についても、状況を見ながら検討していきます。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	参観日、個別相談会、交流会(保護者会)を実施し、情報交換や意見交換が可能となる場を設定しています。	引き続き、今年度も継続し、保護者様との共通理解を深められるように努めます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0%	100%	保護者向けの研修等の案内は行っているが、当施設主導でのペアトレ・研修は行っていない。	ペアレントトレーニングが行えるよう準備中です。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	ご契約時に説明していますが、より深く理解していただけるよう心がけます。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	子どもの意見を尊重し、反映した個別支援計画を作成するために、話をする機会を設けています。	子どもやご家族様の考え等を積極的に取り入れ、個別支援計画に反映させるため、話をする機会を多数設けるように努めます。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	個別支援計画を示しながら説明をしています。	支援員の押付けにならないように計画を立て、内容をしっかりご理解いただき同意を得るよう心がけています。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	86%	14%	常時、電話での対応を実施している。また、希望に応じて、個別懇談等での気軽に来所いただける場を設定している。	今後も、ご家族様から気軽にご相談いただけるように、関係構築に努めます。面談回数を増やせるよう改善していきたいと思っています。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	兄弟姉妹を含めた全家族参加型行事を2回、保護者様対象の行事を1回開催しました。	今後も、ご家族様にご参加いただける、機会の提供に努めます。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	ご家族様からの申し入れは貴重な意見として、活動等に反映させていただいております。また、ご相談・苦情に関しても、社内情報共有し、必要に応じて外部機関を含めて対応しております。	相談や申し入れができる機会を増やし、相談等しやすい雰囲気作りに努めます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	HUGシステム、通信を利用して、定期的に情報を発信しています。	現在、個人情報保護の観点からSNSを利用していません。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	組織的安全管理、人的安全管理、物理的安全管理、技術的安全管理、すべての措置を講じています。	今後も個人情報保護に対する意識を全職員で徹底していきます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	子ども達へは、個人に合わせて視覚支援等を取り入れています。また、保護者様へは、結論から話すことを心がけています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	野菜販売、夏祭りを実施して、地域の方へ開放しています。	インクルージョン推進を見据えて、より充実した地域交流活動に取り組んでいきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	安全点検、安全計画、学校との連携を取りながら、支援を行っている。また、虐待防止、防災訓練、感染症対策等の研修・訓練を実施している。	日ごろから防災意識を高めて、子ども達、職員が緊急時に迅速に避難実行が可能となるように努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	各施設定期的に訓練を行っています。BCPについても経済産業省より事業継続力強化計画の認定を受けました。	今後も安心してお預けいただけるよう定期的な訓練→BCPの見直しを行い、非常災害時に備えます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	初回アセスメントや定期的に確認しています。また、必要に応じて事前に保護者様から『服薬依頼書』を書いていただくなど、情報の共有をしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	現在、食物アレルギーを有している利用者はいない。	今後、対象者に対しては適切な対応ができるよう体制整備に努めます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全点検、安全計画、学校との連携を取りながら、支援を行っている。また、虐待防止、防災訓練、感染症対策等の研修・訓練を実施している。	日ごろから防災意識を高めて、子ども達、職員が緊急時に迅速に避難実行が可能となるように努めます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	緊急時の対応について、保護者様に配布している。また、HUGにて、外出を伴う活動時にはスケジュール及び緊急時避難場所を発信している。	今後も引き続き、避難場所等を発信していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	些細な事でも記録しています。また、その記録について、定期ミーティングにて事例検討等を行っている。	ヒヤリハットを軽視することなく、安全意識の向上や職場環境の改善を図り、重大事故の防止に努めています。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止委員会が示す、年間計画に基づいて、研修等を実施している。また、定期ミーティングでも事例検討等を行っている。	研修だけでなくとどまらず、職員同士のコミュニケーションを深め、組織的に虐待防止に努めています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	定期ミーティングにて事例検討等で常に話し合いを行っている。	身体拘束廃止委員会を設置しています。今後も身体拘束を行わなくてよい環境設定に努めます。	